

研究助成事業報告書

地域内高齢層と地域外若年層による地域保全システムの構築

2026年3月13日

風媒会 会長 奥村悠一郎

1. 事業の経緯



風媒会とは2024年8月に発足された学生ボランティア団体である。石川県羽咋郡志賀町赤崎を事業の中心として活動し、古民家宿のTOGISOを活動拠点とする。赤崎は令和6年に起きた能登半島地震の影響を受け、海底の隆起や津波、建物の損壊などの被害を受けた。加えて志賀町は消滅可能性自治体に指定されており、対策を講じない限り住民が減り続け、訪れる人も減少すると考えられる。かつて漁師町として栄え一本道に整然と並んだ黒瓦の家屋や冬の風物詩である間垣の街並み、町民がよく知る海の幸といった、文化的景観がこの地域の特徴である。



2. 事業の課題

上記から考える課題とは、「文化的景観の消滅」と「来訪者の減少」である。公費解体による街並みの崩壊、海の幸などに関する情報の断絶が発生する。また住民が減り続け、訪れる人も減少してしまうと考える。

3. 課題の解決

我々はこの課題に対して、「赤崎に人の流れを作り出す地域保全システム」を形成することで解決する。このシステムとは景観や文化を守ることを最終的な目的とする。システムの内容は、建造物の製作などの活動を通して地域の高齢層から地域外の若年層へ伝統や文化の継承を行う。これにより赤崎を若年層にとっての第二のふるさととし、地域を応援する団体を作り上げる。

4. 活動報告

間垣の作成

※間垣：石川県能登地方にみられる竹で作った垣根。

・活動背景

赤崎は海風が強く昔は間垣、最近ではブロック塀が設置されていた。自身の影響でブロック塀が崩壊した。

・活動課題

防風柵がなくなる。赤崎の原風景が失われる。

・活動内容

間垣の再建。地域の方との共同作業による交流。活動の周知。

① 間垣の見学（2025年6月21日）



志賀町（生神集落、七海地区）で見学。高さや支柱間隔の測定を行った。

② 竹の採集（同年6月～11月・計4回）



地域住民の協力の元、敷地に生えた竹を採集。道具の使用方法や運搬方法を指導して頂いた。伐採、枝落とし、運搬に分かれて作業。最終的な竹の本数は390本。

③ 支柱用木材の収集（同年6月22日）



山本設備工業様の協力のもと柱材となるアテの木（さ約5m、直径10cm強）を伐採。道具の使用方法を教えて頂いた。伐採して頂いた木の枝落とし、皮はぎ、運搬を行った。皮はぎは後日追加作業。約20本を採集。

④ 組み立て（同年11月15・16日）



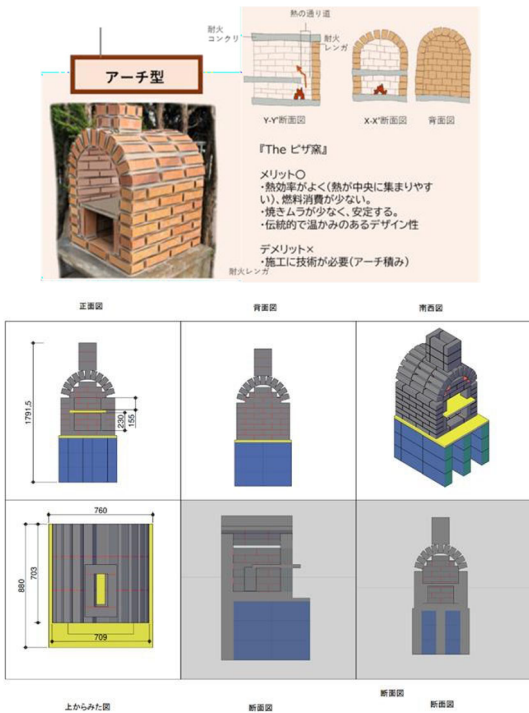
TOGISOの裏手に設置。山本設備工業様に協力して頂いた。土台の作成。支柱の設置、作業に関する指導をして頂いた。アテの木で間垣の枠を作成し、上から竹を差し込む。上下の作業員での協力が必須。最終的に竹の下を切断しさを調整。

④ 仮組（同年 2 月）

組み方や配置を確認。組み立ての際の注意点や材料の不備を確認。



・現在の進捗状況



2026 年 3 月に窯を作成予定。加熱方式や大きさの選定に苦労した。

・設計を行っての感想

「窯の種類が加熱方式や素材によることを学んだ」「3DCAD を用いて形にすることが出来た」

・今後の予定

3～4 月：窯完成、試運転

7～8 月：交流イベントの企画

9～10 月：二つ目の窯の製作

イベントの内容：お盆の祭礼期間やワークショップの際に、伝統的な料理で文化の継承を図る。

輪島塗のレスキュー

・活動背景

住宅解体の際に輪島塗も捨てられる。

・活動課題

貴重な輪島塗が失われる。

・活動内容

使用可能な輪島塗を回収し有効活用する。

① 回収作業（2025 年 4 月 5 日）



解体業者に了承を得てレスキューを実施。回収した輪島塗は別団体に移譲。

SNS の運用

・活動背景

活動を発信する媒体の不足。

・活動課題

団体や活動を認知しづらい。

・活動内容

ホームページの作成（情報追加中）。X、Instagram の運用。





5. 継続の方策

2026年の活動として予定していた赤崎地区に関する情報の整備や未来構想についての調査状況の報告。(村の研究活動の調査とその分析)

・調査

聞き取り調査：志賀町の方、赤崎地区区に対して実施。歴史や暮らし、移住者について伺った。

アンケート調査：石川県内外の学生とその知人（47名）に対して実施。赤崎地区の魅力や興味の対象について調査。

・課題（調査から考察）

来訪拠点の不足：自然的資源といった魅力的要素はあるが、訪れるきっかけになるような施設が未整備。

街並みの喪失：住宅の解体による街並みの空白化。建て替えにより街並みが失われる。

・解決方法の案

赤崎地区の街並みを模した来訪の契機となる施設の計画。(自然体験施設、宿泊施設)

6. 今後の予定

継続するもの

- ・間垣の作成、整備
- ・窯の作成
- ・ホームページの作成

新しく取り組むもの

- ・古民家の改修
活用方法を考え、赤崎の活性化を図る。
- ・祭礼の復興
被災した神社の整備やキリコの再建。

7. 活動のまとめ

成果

- ・地域の方との交流
- ・活動する上での管理体制の確立
- ・間垣の完成
- ・活動の周知

感想

一年を通じたプロジェクトで間垣という形あるものが出来てよかった。地域の方の感想を見て、交流を通して地域に貢献できた実感を得られた。

協力者の方からのコメント

赤崎地区区：太田仁志さん

若い人たちが頑張っているのを見てとても元気が出ます。間垣も昔を思い出し、本来の赤崎というような感じで素敵です。これからも赤崎のために一緒に頑張っていきましょう！

地域の住民：矢島円さん

70代以上が大半を占める集落に、今や風媒会は欠かせない存在です。復活した間垣は人々の記憶を呼び覚まし、会話に花を咲かせます。これからも赤崎の住民が元気に

なるような街づくりを続けていきま
しょう！

TOGISO オーナー：佐藤正樹さん

失われつつあった能登の風景である間
垣の再生に取り組んでいただき、心より
感謝いたします。担い手不足の中で技術
継承の道を拓いた意義は大きく、学生が
継続的に関わることで地域と未来をつな
ぐ活動として発展していくことを期待し
ています。

8. メディア

北國新聞

令和6年8月14日朝刊（19面）

令和6年9月17日朝刊（21面）

令和7年6月24日朝刊（16面）

令和7年11月18日朝刊（18面）

中日新聞、北陸中日新聞

令和6年8月14日朝刊（11面）

令和8年1月7日夕刊（2面）

TBS NEWS DIG

令和6年11月23日放送